

## 令和5年度 第1回久留米市上下水道事業運営審議会（要旨）

### 1 開催日時

令和5年6月2日(金) 10時00分から11時10分

### 2 会場

久留米市企業局庁舎 3階 第1会議室

### 3 出席委員・アドバイザー（名簿順）

#### ・委員

広城吉成委員、香月孝文委員、本松賢治委員、西野恵子委員、  
倉八啓壽委員、権藤裕子委員、堀田富子委員、清水啓介委員  
計8名

#### ・アドバイザー

原正文氏 計1名

### 4 欠席者

#### ・委員

齊藤由里恵委員 計1名

#### ・アドバイザー

三宅伸宏氏 計1名

### 5 事務局（市職員等）

石原企業管理者、住吉上下水道部長、中村上下水道部次長、新原上下水道部技術担当次長、長野経理課長、城戸営業管理課長、橋本給排水設備課長、内野上水道整備課長、河野浄水管理センター所長、宮崎下水道整備課長、足立下水道施設課長、宮脇河川課長、その他事務局職員等10名

### 【議事次第】

#### 1 開会

#### 2 企業管理者挨拶

#### 3 審議会委員交代について

#### 4 諮問

久留米市上下水道事業のあり方について

(1) 久留米市上下水道事業経営戦略の中期改定について

(2) 久留米市生活排水処理基本構想の見直しについて

(3) 適正な下水道使用料のあり方について

#### 5 議題

(1) 審議事項

・久留米市生活排水処理基本構想の見直しについて

#### 6 令和5年度について

・経営戦略中期改定についての諮問、答申スケジュール

- 7 その他
- 8 閉会

#### 【配付資料】

- ・ 令和5年度第1回久留米市上下水道事業運営審議会次第
- ・ 久留米市上下水道事業運営審議会委員名簿
- ・ 第1回久留米市上下水道事業運営審議会座席表
- ・ 久留米市上下水道事業のあり方について（資料①）
- ・ 生活排水処理基本構想の見直しについて（資料②）
- ・ 公共下水道整備計画図（別紙①）
- ・ 経営戦略中期改定についての諮問、答申スケジュール（資料③）
- ・ 久留米市上下水道事業経営戦略（概要版）

#### 議事録要旨

(※) 審議会の中で出た意見・要望等に対する事務局の見解や方針

#### 1 開会

- 事務局より、委員の半数以上が出席しているため、会議が成立していることの報告
- 事務局より、傍聴者の確認⇒傍聴希望者なし

#### 2 企業管理者挨拶

事務局より、企業管理者挨拶

#### 3 審議会委員交代

事務局より、野口委員から清水委員への交代の報告、及び清水委員挨拶

#### 4 諮問

久留米市上下水道事業のあり方について

- (1) 久留米市上下水道事業経営戦略の中期改定について
- (2) 久留米市生活排水処理基本構想の見直しについて
- (3) 適正な下水道使用料のあり方について

#### 5 議題

##### (1) 審議事項

- ・ 久留米市生活排水処理基本構想の見直しについて

≪質疑・応答≫

質疑なし

○堀田委員

議題における生活排水処理基本構想の見直しについて、賛成の立場として2点意見を述べさせていただきたい。

まず1点目について。市町村合併がなされた時点で、既に三潨地区では合併処理浄化槽の整備が地区内で進んでいた。そのような状況もあり、合併後において下水処理を浄化槽から公共下水道に切り替えることに対して元々抵抗があった。費用面等の観点からも、三潨地区では公共下水道整備を縮小し浄化槽を今後進めていくという方針の方が大変いいことだと思われる。

上水道についても、田主丸地区については一旦整備を休止して延伸をストップしている状況だと聞いている。田主丸地区も三潨地区同様、今後は公共下水道も整備を縮小していった方がいいのではないかと。

○広城会長

7ページ下段のウ 合併処理浄化槽への転換が進まない理由について確認したい。この理由は市民からご意見を直接聴取したのか、あるいは事務局側で想定されて書かれたのか。理由の一つに「環境面の意識が希薄」と記述されているが、市民の思いなのか、事務局の想定なのか、理由の根拠を明らかにしてほしい。

■事務局（給排水設備課 橋本課長）

ご質問頂いた理由の根拠については、直接市民から聴取したものではない。国からの資料等を活用して作成したものである。全国的に単独浄化槽から合併処理浄化槽への転換が積極的に進まない中で、国からも各事業体へ転換の促進が強く推進されている。そのような現状から事務局内で進まない理由を推測した。

○広城会長

いずれ生活排水処理基本構想の見直しを市民へ周知する際、この資料等が開示されると「自分たちは環境面の意識が希薄なのか」と誤解を招く可能性がある。市民感情を配慮する点からも出典（環境省の通達等）について明記してほしい。

■事務局の見解（※）

市民に対して誤った印象を与えないためにも、該当資料に出典名（環境省から発出されている浄化槽に関する提言や転換を促進する啓発資料等）を明記したい。

○西野委員

市民の立場として意見を申し上げたい。住宅を新築する際に、各施主が合併処理浄化槽設置に関する補助制度を知らないパターンが多く見受けられる。例えば下水道の施工業者から施主に当制度の説明を行ったり、環境面で気を付けるべき点を説明したり、様々な面から市民へ生活排水処理に関する意識付けを図るべき。

○本松委員

7ページ下部に浄化槽補助制度拡充の考え方、8ページに補助制度の詳細が記載されているが、補助金額が人槽区分によって変動したり、設置に関する補助に上乗せされる補助制度や、浄化槽の維持管理に対する補助など、様々な内容が含まれている。市民としては費用面が一番気になるところだと思うので、単独処理浄化槽から合併処

理浄化槽へ転換した場合、あるいは汲み取り便槽から合併処理浄化槽へ転換した場合など、パターンによってコストがどのくらいになるのかを細かく示してほしい。補助申請件数を増加させるためにも効果があると思う。

■事務局（給排水設備課 橋本課長）

ホームページや浄化槽保守点検業者を通じて補助制度の周知を行っているが、まだまだ不十分であると認識している。今後も様々な面から制度の周知を図りたい。

○広城会長

西野委員や本松委員から出た意見に対し、事務局に然るべき対応をお願いしたい。

■事務局の見解（※）

保守点検業者やホームページを活用した再周知を行うとともに、今後はさらに市民を対象とした周知を丁寧に行っていくべきだと考えている。様々な周知手段を研究しながら具体的な方策を検討していきたい。

## 6 令和5年度について

- ・経営戦略中期改定についての諮問、答申スケジュール

《全体を通して質疑・応答》

質疑なし

○清水委員

今回、財政状況が現状のまま進んだ場合、水道事業で令和11年度、下水道事業で8年度に赤字に転落するということを初めて知り、ここまで経営が悪化していることに対して愕然となった。これまでの上下水道事業において久留米市はよく健闘しているという認識を持っていたし、久留米市の水道料金・下水道使用料ともに他市と比較して良い方だと感じていた。

現時点で数年後に赤字転落することが想定されているのなら、もう少し大胆な改革が必要だと思われる。大きな改革を行う場合に市民から批判が出ることは当然ながら、この状況をいかに市民に理解してもらうかが重要であり、今からでも市民に状況を伝えておく必要があると思う。もちろん広報誌に状況を載せるだけでは不十分であるし、他の新たな媒体や発信手段を考えながら、広報を展開していく必要がある。

■事務局（中村次長）

これまでも経営状況を掲載した広報紙を全戸配布するなど、様々な広報手段を行ってきたが、行政側からの一方通行感は否めない。なかなか深く状況が伝わらない中でどういった有効な広報手段があるのかをまたしっかりと考えていきたい。また、審議会でもこのような方法はどうか等、具体的な意見もいただきながら進めていきたい。

いずれにしても上下水道は重要なライフラインであることは変わりなく、将来的に安定した事業を継続して行う必要があるということは十分認識している。

○香月副会長

資料①の下水道事業の経営概況について。グラフ上では経営戦略（前期）推計値の下水道収益が上がっているが、推計値の経常損益が下がっていることが読み取れ、一見矛盾しているように見えるが、どのように推計していたのか教えてほしい。例えば経営戦略策定時に、多額の減価償却費などの費用を見込んで計算したのであれば納得できる。

■事務局（藤原補佐）

策定時では、減価償却開始のタイミングや継続事業のことを十分考慮できずに推計値に反映させていたことが、両者が連動していない要因である。

○広城会長

今回、質問や意見が挙がった箇所が市民の目に触れるときに、同様の疑問を市民が持たれる懸念がある。それに対して、もう少し資料の見せ方や伝え方に工夫が必要だと思われる。

西野委員からは「浄化槽補助制度を含む情報の周知」、本松委員からは「浄化槽補助制度の拡充についてもう少し分かりやすい示し方が必要」、清水委員からは「この厳しい経営状況をどのように市民に発信していくのか」という意見をいただいた。

■事務局の今後の対応方針（※）

市においては、水道・下水道を利用されている市民の方々が事業の理解や財政などの状況を把握いただくために、積極的な情報提供や、広報展開は重要な手段と考えている。現在行っている取り組みを今後も継続して行っていくとともに、今回いただいた意見を参考に、資料の作成や経営状況など市民への周知の方法を工夫したい。

## 7 その他

■事務局より、会議議事録の公開及び次回の審議会開催日程（令和5年7月26日を予定）について連絡

## 8 閉会

○広城会長より、閉会のあいさつ